

労働安全衛生法 通知対象物質： 鉱油 60～80%
 官報公示整理番号（化審法、安衛法）： 必要あるものは登録済み

4. 応急措置：

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し保温し安静に保ち、必要なら医療処置を受ける。

皮膚に付着した場合： 直ちに、触れた部分を石鹼を使って水で洗い落とす。

目に入った場合： 清浄な流水で直ちに15分以上洗眼した後、医師の手当てを受ける。洗眼時にはこすらず、まぶたを指で良く開き、眼球、まぶたの隅々までよく洗浄する。

飲み込んだ場合： 意識のある時は、口の中をすすぎ、水を与えるが、無理には吐かせない。医療処置を受ける。

衣服に付着した場合： 直ちに汚染した衣服を脱ぎ、汚染された身体部位は石鹼を使用してよく洗い流す。

5. 火災時の措置：

消火剤： 炭酸ガス、粉末、泡

使ってはならない消化剤： 棒状注水

消火方法： 初期消火には炭酸ガス、粉末消火器等を用いて、風上から消火する。

6. 漏出時の措置：

人体に対する注意事項： 作業者は適切な保護具を着用し、目・皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

保護具及び緊急時措置： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載

環境に対する注意事項： 河川中に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。環境中に放出してはならない。

除去方法：

少量の場合： ウェスや砂等に吸着させて回収する。

大量の場合： 土砂などで汚染の拡大を防止した後、できるだけ多くバケツ、ポンプ等で回収する。少量になったら、上記と同じ方法で処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意：

取り扱い：

- 目や皮膚に触れないように注意する。
- ミストや蒸気を吸うと気分が悪くなることがあるので、換気に注意し、ミストや蒸気を吸い込まないよう注意する。
- 火炎との接触を避ける。
- 空ドラムに圧力をかけてはならない。又、溶接や切断、穴明けなどは残留物が発火する恐れがあるので、2次加工は避ける。
- 誤飲を避けるように管理する（他の容器に移し替えると誤飲する可能性があるので注意）。

保管：

- 使用しない時は、容器は密栓し、ごみや水などの混入を防ぐ。
- 酸化性物質との混載、混合保管は避ける。
- 子供の手の届かない場所に保管。

8. 暴露防止及び保護措置：

管理濃度： 規定なし。

許容濃度： 成分中の精製鉱物油の許容濃度
 日本産業衛生学会（2015年度版）： 3mg/m³
 ACGIH（2015年度版）： TLV-TWA 5mg/m³
 （鉱物油ミストとして）

設備対策： 規定はないが全体換気装置、又は局所排気装置の設置が望ましい。

保護具： 呼吸用保護具：必要に応じて適切な呼吸用保護具を使用する

保護眼鏡：必要時にはゴーグル型の眼鏡を使用する。
 保護手袋：耐油性のものを使用する。
 保護衣：濡れる場合は耐油性のものを使用する。

9. 物理的及び化学的性質：

物理的状態、形状、色など：	濃黄色油状
臭い：	油臭
pH（原液）：	—
pH（5%）：	9.4
融点・凝固点：	<0°C
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	なし
爆発範囲（Vol%）：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度（空気 = 1）：	データなし
密度 g/cm ³ ：	0.89 (15°C)
溶解性：	水に乳化溶解。
オクタノール/水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし
動粘度 mm ² /sec (40°C)：	30
揮発性：	極めて低い。

10. 安定性及び反応性：

引火点：	9. 物理及び化学的性質に記載
可燃性：	燃焼する（水分蒸発後や強制燃焼）。
安定性・反応性：	通常の状態では極めて安定。但し、強酸化剤との接触は避ける。
発火性（自然発火性、水との反応性）：	なし
自己反応性：	なし
爆発性：	なし

11. 有害性情報：

急性毒性：	経口 LD50 >2000 mg/kg（計算値） 経皮 LD50 >2000 mg/kg（計算値） 以上に基づき、「区分4」よりさらに低い危険有害性であったため「区分外」とした。 吸入 LC50 は、データがないため分類できないとした。 現在のところデータがないため、分類できないとした。
皮膚腐食性・刺激性：	重篤な眼の損傷があると判断して「区分1」とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
呼吸器感作性：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
皮膚感作性：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
生殖細胞変異原性：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
発がん性：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
生殖毒性：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	現在のところデータがないため、分類できないとした。
吸引力呼吸器有害性：	「区分2」よりさらに低い危険有害性であったため「区分外」とした。 現在のところ有用なデータなし。
その他：	

12. 環境影響情報：

環境に対する有害性	
水性環境急性有害性：	混合物の成分の「濃度（区分1）×毒性乗率（1）×100+濃度（区分2）×毒性乗率（1）+濃度（区分3）」が25%以上となるため区分3とした。
水性環境慢性有害性：	混合物の成分の「濃度（区分1）×毒性乗率（1）×100+濃度（区分2）×毒性乗率（1）+濃度（区分3）」が25%以上となるため区分3とした。

分解性： 現在のところ有用なデータなし。
 蓄積性： 現在のところ有用なデータなし。
 魚毒性： 現在のところ有用なデータなし。

13. 廃棄上の注意：

廃液： この液を含む排水は活性汚泥などにより清浄にしてから放流する。若しくは、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。この液を廃棄する時は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託するか排煙処理設備のある炉で強制燃焼する。

廃容器： 火気から遠ざけた安全な場所に集積し、廃棄に当たっては都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

14. 運送上の注意：

陸上輸送： 非危険物。
 海上輸送： 非危険物。
 航空輸送： 非危険物。
 注： 運送に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう取り扱う。

国連分類： 非該当
 国連番号： 非該当

15. 適用法令：

PRTTR法： 非該当
 労働安全衛生法
 通知対象物質： 鉱油 60～80%
 特定化学物質： 含有しない。
 有機溶剤中毒予防規則： 指定物質を含有しない。
 化審法 整理番号： 必要あるものは登録済み。
 特定化学物質： 含有しない。
 消防法： 非危険物
 危険物船舶運送及び貯蔵規則： 非危険物。
 海洋汚染防止法： 油分排出規制。
 水質汚濁防止法： 油分、COD等排出規制（有害物質は使用しない）。
 下水道法： 油分、COD等排出規制（有害物質は使用しない）。
 貿易管理令： 適用外製品。
 廃棄物処理法： 産業廃棄物規制。

16. その他の情報：

<参考文献>

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7252:2009（日本規格協会）
 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253:2012（日本規格協会）
 GHS対応による混合物（化学物質）のMSDS作成手法の研修改訂版（中央労働災害防止協会）
 GHS対応MSDS・ラベル実務早わかり（産業環境管理協会）
 GHS分類結果データベース（製品評価技術基盤機構 NITE）
 GHS化学品の分類および表示に関する世界調和システム（経済産業省）
 GHS分類マニュアル [h17.10.20版]（GHS関係省庁連絡会議監修）

記載内容は現時点で入手可能な資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質の数値、危険有害性情報等に関しては、いかなる保証を成すものではありません。この情報は新しい情報を入手した場合、追加又は改訂されることがあります。また、注意事項は通常的な取扱いを対象にしたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

以上